

鹿島小学校における全国学力・学習状況調査について

調査の趣旨

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
- ・各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育および教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。
- ・各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てること。

○ 調査期日

- ・平成21年4月21日（火）

○ 調査の対象および対象数

- ・鹿島小学校6年生 国語・算数 68名（未実施者を除く）

○ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 国語A 算数A	主として「活用」に関する問題 国語B 算数B
○身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題。	○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践する力などに関わる内容を中心とした出題。

(2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○ 結果の概要

【教科に関する調査について】

- ・鹿島小学校の全体の正答率は、全国と比較した場合、算数A問題で大きく上回ってはいるものの、その他の国語A問題は全国とほぼ同じ、国語B問題、算数B問題が全国をやや下回る結果となっています。これまで国語科では思考力・表現力の育成をめざした指導、算数ではTT担当を中心とした少人数指導や習熟度別指導等の取組を行って来ていますが課題が残りました。
- ・今後は、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着はもちろんのこと、習得した力の活用など発達段階に応じながら、また家庭学習など家庭と連携・協力しながら取り組んでいきます。

○ 国語〈A問題・B問題について〉

- ・国語Aについては、話すこと・聞くことは全国とほぼ同じ結果を示しています。国語への興味・関心・態度、話す・聞く能力は高いポイントをあげています。
- ・言語についての知識・理解の中で「接続語」や書写にわずかに課題が残っていますので、日常の学習で確実に定着を図らなければならないと考えています。
- ・無解答率ではローマ字の読み書きが高く、これは国語科だけではなく外国語活動とリンクした指導が求められています。
- ・日常の国語科では、基礎的・基本的事項の確実な定着をめざし、習得した知識・技能を意図的に使うなど、定着する工夫を行っていくことが大切であると考えています。

- ・国語Bについては、言語事項については全国平均以上のよい結果を示していますが、「話すこと・聞くこと」については全国平均に比べやや下回った結果を示しています。
- ・無解答率では、話し手の意図を聞き取ることができていなかったり、目的に応じて必要な情報を取り出せなかったりする項目に課題が残りました。ただし、粘り強く取り組もうという姿勢は伺え、本校が取り組んでいる日常の国語科指導において、最後まで何とか頑張ろうとする子どもたちが育ってきていることに自信を深めました。
- ・今後も、これまで習得した知識・技能を活用する力の育成をめざしながら授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

○ 算数〈A問題・B問題について〉

- ・算数Aについては、全国平均を大きく上回っていてよい傾向にあるといえます。すべての領域で高い結果となっていて、特に計算領域で正答率100%の問題もあり、基礎的・基本的事項の確実な定着が図られていると考えています。また、無解答率も低く、粘り強く答えを出そうと頑張っている姿勢が見えます。
- ・今後も、これまでのように基礎的・基本的事項の確実な定着をめざし、日常生活と結びつけた問題の提示や算数の楽しさを味わわせるような指導等に心掛けていきたいと考えています。

- ・算数Bについては、全国平均よりやや下回る結果となっています。特に数量関係のポイントが低く課題が残りました。
- ・全国や県と比較して、無解答率が特に高いというのは見られませんが、生活や他教科と結びつけた問題に対して弱いことが分かります。そこで、問題提示では、生活に密着した問題や他教科との関連を考慮した問題を提示するなど工夫していきたいと考えています。また、必要な情報選択、答えたわけを書くなど、習得した知識・技能を活用する力、特に自分の考えを文章化する問題に対し課題がありますので、今後は単に答えを出すだけではなく、なぜそう考えたのか、考えていく過程を重視した指導に力を入れていきたいと考えています。

○ 今後の取り組み

- ① 授業での積み残しをしないよう、指導方法を充実させること、少しの時間を見つけての補充指導を充実することなどに力を入れ、更なる基礎的・基本的事項の確実な習得をめざしていきたいと考えています。
- ② 算数・国語の習熟のために日常の家庭学習の充実や学期末の「漢字・計算フェスタ」の充実など、個々の力に応じた支援を図っていききたいと思います。
- ③ 活用する力の育成のためには深い教材研究が必要です。子どもたちの「思考力」「表現力」をつけるために、国語・算数だけではなく、すべての教育活動の中で、意図的・計画的に実践を積み重ねていきたいと考えています。

【学習習慣や学習環境に関する質問紙調査について】

◇ 本年度教育目標の中で重点目標としている項目と全国や県平均との比較から

- **基本的な生活習慣（早寝・早起き・しっかり朝ごはん）**
 - ・95%近くの子が7時までに起床していますが、夜11時以降に寝る子どもも15%以上いることから、夜更かしをし、睡眠を十分取っていない子どもがいることがわかります。
 - ・「朝ご飯」を毎日食べている割合は85%と全国や県平均より低い結果となっています。また、家族と一緒に朝食を食べている割合もやや低い結果となっています。
- **自分のこと（自己肯定感、自尊感情の醸成）**
 - ・将来への夢や目標を持っている割合が高いですが、自分のよいところに自信を持っている割合が全国平均と比べるとやや低いようです。
 - ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦する子ども、また自分には良いところがあると自信を持っている子どもの割合が高い傾向にあります。
- **家庭学習とテレビゲームやインターネットの時間**
 - ・家庭学習では、1日に勉強している時間は全体的に少ないです。学校が休みの日であっても1時間も勉強していない子どもが30%も見られます。また、学習塾（家庭教師を含む）での勉強の割合も低いです。
 - ・テレビやビデオ・DVDの視聴時間が少ない子どももいますが、4時間以上の長い時間見たり聞いたりしている子どもは全国や県平均と変わらず23%もいます。
 - ・携帯電話の所持やインターネットの利用は少ないです。
- **読書指導の推進**
 - ・学校（市）の図書館を利用する子どもの割合は高く、読書が好きな子どもは80%以上を示しています。毎日30分以上読書をしている割合も全国や県平均より高いです。
- **楽しい学校生活**
 - ・友達との関係や他人に対する思いやり、また学校の決まりや約束を守るなどの傾向は全国や県平均と変わらずよい傾向にあります。
- **家庭での生活**
 - ・学校のことを家の人に話をしていない子どもの割合が40%以上もありやや問題です。

◇ この結果からわかること・今後取り組んでいきたいこと

➤ これまで以上に、「早寝・早起き・しっかり朝ご飯」運動への必要性を再認識し、家族での会食（団らん）の機会を増やしてほしいと思います。今後も「いきいき鹿島っ子」等を活用して、家庭と連携を図りながら継続的に取り組んでいきたいと思います。

また、手伝いなどよく行っている割には、学校での出来事についてはあまり話をしていません。学校の話で会話がはずむように、今後も学校からの情報（学校からのたより、学級だより、ホームページ等）をできるだけ流していきたいと考えています。

➤ 学校生活については満足している様子がわかります。夢も持っています。目標を持って生活をしていてとてもよい傾向にあります。子どもの自尊感情・自己肯定感を高めるためにも学校と家庭との良好な関係を築いていきます。これからも学校に行くのが楽しいと考えて登校する子どもを更に増やしていきたいと思います。

➤ 課業日の家庭学習時間については、1時間以上勉強をしている割合が70%を超えています。ただし、学校が休みの日の家庭学習時間については、1時間も勉強をしていない子どもが20%程度いて全国や県平均と比べると低いです。休みの日であっても自分から進んで勉強する子どもにするためには、勉強の楽しさ、できたという達成感がエネルギーとして必要です。そのエネルギーを充填できるような声かけや賞賛などを行ったり、子どもへ対応したりするような努力を行っていききたいと思います。

➤ テレビやビデオの視聴時間については、親子で話し合って家庭で視聴時間を決めるということも大事です。視聴時間が長くなれば、睡眠時間にも、また起床時間にも影響してきます。「いきいき鹿島っ子」を活用するなどして、規則正しい生活習慣確立へ向けて保護者との連携を図っていききたいと思います。

➤ 携帯電話の所持やインターネットの利用は少ないということはいいことです。インターネットについては、情報モラルなどきちんとした使い方の指導を今後とも続けていききたいと思います。

➤ 昨年度、本校の一人当たりの読書冊数は年間79冊でした。これは、朝の読書、PTA母親部やはばたきの会による読み聞かせなどが功を奏していると考えています。活字離れには歯止めがかかっていますが、よく読むことそうでない子の温度差も大きいので、一人一人の読書傾向を分析し、ジャンルに偏りがないように学年の発達段階や個に応じた読書の奨励を行っていききたいと思います。

➤ 地域社会へ関わりについては、学校ではまず地域の人たちへ元気よくあいさつをすることから始めています。地域で行われるゴミ拾い活動などには積極的に参加をさせ、地域の環境に目を向けさせたり、地域の一員としての自覚を促したりしていききたいと思います。

ガタリンピック、鹿島おどりなど鹿島市が行う行事や地区の伝統芸能、生涯学習課や青少年育成会議などで計画される鹿島ドリームシップ、訪韓の翼、通学合宿などにも積極的な参加を呼びかけていきます。

これらの行事へ積極的に参加をさせることで、「ふるさと鹿島」のことが自分のこととして理解できると考えています。そして、鹿島の一市民として生活しているという自覚と「ふるさと鹿島」を誇りに思う心も醸成していきたいと思います。